

東日本大震災により甚大な被害を受けた地域農業の再生に向けた実証研究

宮城県

研究課題：被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術の実証研究

ブドウ・小果樹類・クリの先進的生産技術

東北地方に今まで無かったクリの経済産地の育成

省力・多収生産技術

クリ「ぽろたん」のジョイント型樹形開発

- 神奈川県がナシ、ウメのジョイント栽培技術開発でこれまで確立した手法を基にクリ「ぽろたん」の省力・多収生産技術を開発する。



クリ「ぽろたん」のジョイント栽培

福島県

研究課題：持続的な果樹経営を可能とする生産技術の実証研究

ナシ・カキ産地の再生技術

福島県の浜通り地方を中心としたナシ産地の再生

ナシの早期成園化技術

ジョイント型樹形

新一文字型樹形

- 現地の実証研究を通じ、ジョイント栽培等の早期成園化技術導入の機運が高まり、津波被害を受けた相馬市を始め、県内ナシ産地で当該技術の導入が始まっている。



実証地でのせん定研修会

東日本大震災により甚大な被害を受けた地域農業の再生に向けた実証研究

宮城県

研究課題：被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術の実証研究（ブドウ、小果樹類、クリ）

参画研究機関：国立研究開発法人（果樹研究所）、宮城県農業・園芸総合研究所、神奈川県農業技術センター、青森県産業技術センター、岩手県農業研究センター、茨城県工業技術センター、東京農業大学、島根大学、他

クリ「ぽろたん」のジョイント型樹形と加工技術を組み合わせた 実証研究を農業者や加工業者と連携して実施

- 神奈川県が開発・確立したナシ、ウメのジョイント栽培技術を基にクリ「ぽろたん」の省力・多収生産技術を宮城県で実証。
- 茨城県工業技術センターを中心とする研究グループは、「ぽろたん」の特性を活かした焼き栗レトルト製品等の加工製品を開発し、宮城県内の業者へ技術移転。



- 仙台市内の和菓子店「白松がモナカ本舗」では、原料の栗を一部自社農園で生産しているが、ジョイント型樹形の生産性と「ぽろたん」の加工適性を高く評価。本年から当該技術を自社農園にも導入し、栗モナカや栗どら焼きに使用。
- 栗原市では「ぽろたん」のジョイント型樹形を導入したクリの産地化を検討するなど県内各地への技術の普及が進められつつある。



東北地方に今まで無かったクリの経済産地の育成

省力型樹形を基盤とする果樹の省力・軽労型生産技術体系の実証

■ ジョイント栽培（省力樹形）



ニホンナシ

- ・ 成園化期間：5年（半減）
- ・ せん定時間：30～50%減
- ・ 植栽本数：200本/10a(4倍)



カキ

- ・ 成園化期間：5年（1/3）
- ・ 摘蕾、摘果、収穫時間：50%減
- ・ 植栽本数：250本/10a(4倍)



スモモ

- ・ 成園化期間：5年（半減）
- ・ 年間作業時間：約30%減
- ・ 植栽本数：150本/10a(3倍)

省力型樹形

+

省力化機械

■ ジョイント栽培 + 作業機械



- ① 自動走行車（改造ゴルフカー）を活用して収穫、剪定作業等を省力化



- ② アシストスプレー等を活用して上向き作業を軽労化



カキジョイント栽培樹の自動防除

◎省力型樹形と機械等の省力技術を組み合わせて体系化し、作業時間を2割削減し、新技術の普及を促進する。